

令和元年度

# 男女共同参画社会に向けての意識調査

概要版



令和2年3月

福岡県人づくり・県民生活部 男女共同参画推進課

# 目次

1	回答者の特徴	1
2	男女の地位	2
3	性別役割分担意識	4
4	家庭生活	5
5	職業	6
6	働き続けるために必要なこと	7
7	地域活動	8
8	政治分野における男女共同参画	9
9	DV(配偶者や交際相手からの暴力)	10
10	悩みを相談する体制	12
11	男女共同参画社会の実現	13



## 調査の目的

この調査は男女共同参画社会(男女が、お互いの人権を尊重しつつ責任も分かち合い、性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮することができる社会)の実現を目指し、さまざまな取組みを進めるために県民の男女共同参画に関する意識と実態を把握し、今後の施策に反映させることを目的として実施しました。



## 調査の性格

- 調査地域 福岡県全域
- 調査対象者 18歳以上75歳未満の男女3,500人
- 調査方法 郵送法
- 調査期間 令和元年12月3日(火)～12月20日(金)
- 回収率 有効回収数1,531人(有効回収率43.7%)

※政令指定都市以外の地域は、抽出率に2倍の標本数を割り当てたので、集計にあたっては福岡市、北九州市を2倍に加重集計し、最終的に各地域の抽出率が同じになるようにしたため、集計回答総数は2,005となっています。

※回答率(%)は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計は100%にならないことがあります。

※本文中で参考として使用しているデータの出典は

前回調査 「男女共同参画社会に向けての意識調査」

(平成26年度 福岡県新社会推進部男女共同参画推進課)

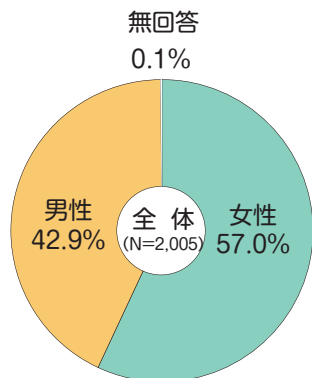
全国調査 「男女間における暴力に関する調査」(平成29年度 内閣府)

「男女共同参画に関する世論調査」(令和元年度 内閣府)

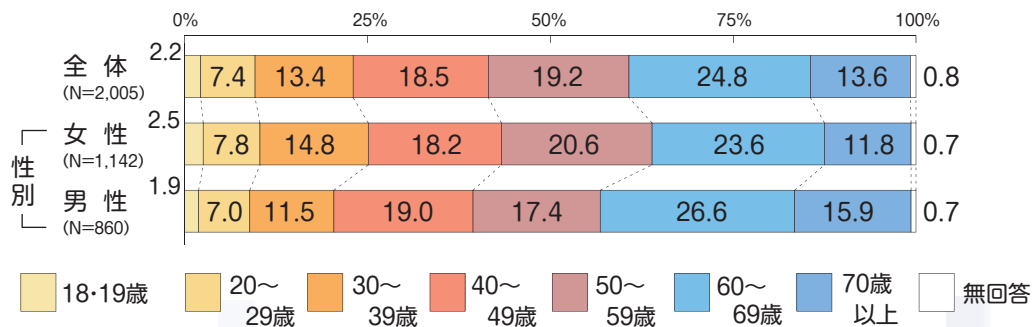
# 1. 回答者の特徴

- ・回答者の性別は、「女性」57.0%、「男性」42.9%。
- ・年齢区分では、「60代」が女性23.6%、男性26.6%で、男女とも最も多い。
- ・配偶関係は、65.5%が配偶者(パートナー)有、そのうち共働きが53.8%、片働きが28.8%。

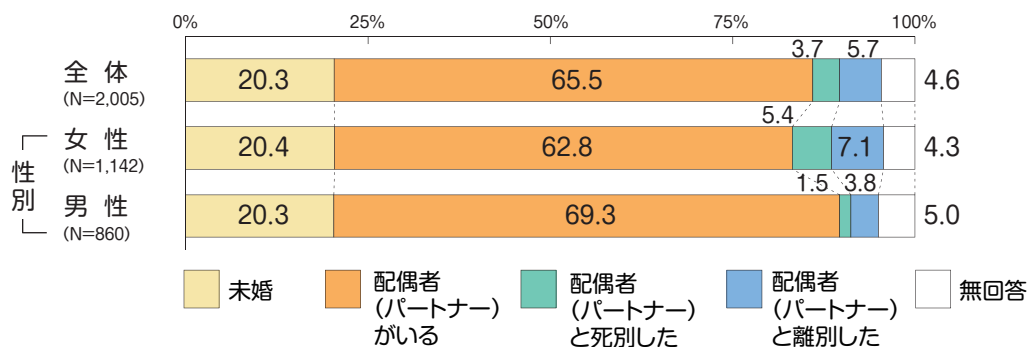
## ●性別



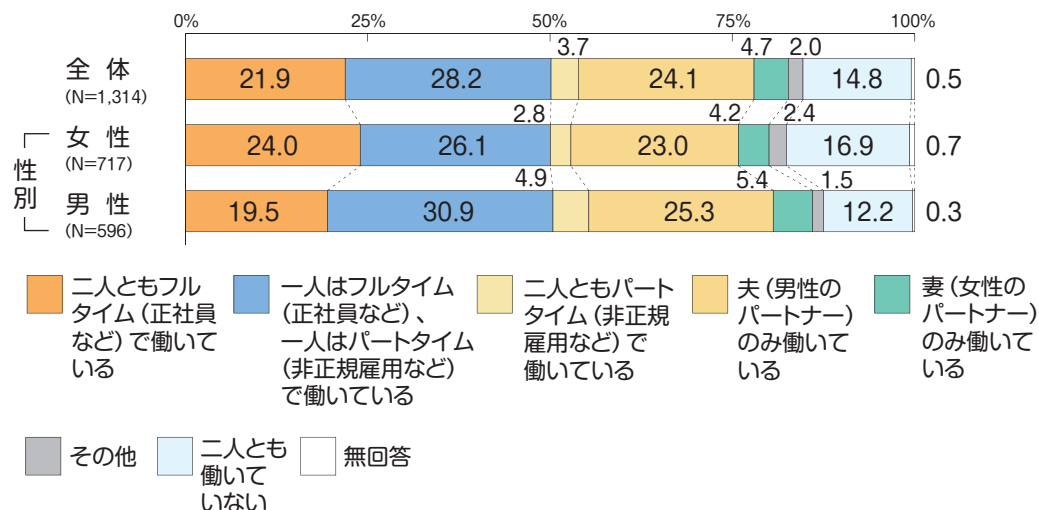
## ●年齢



## ●配偶関係



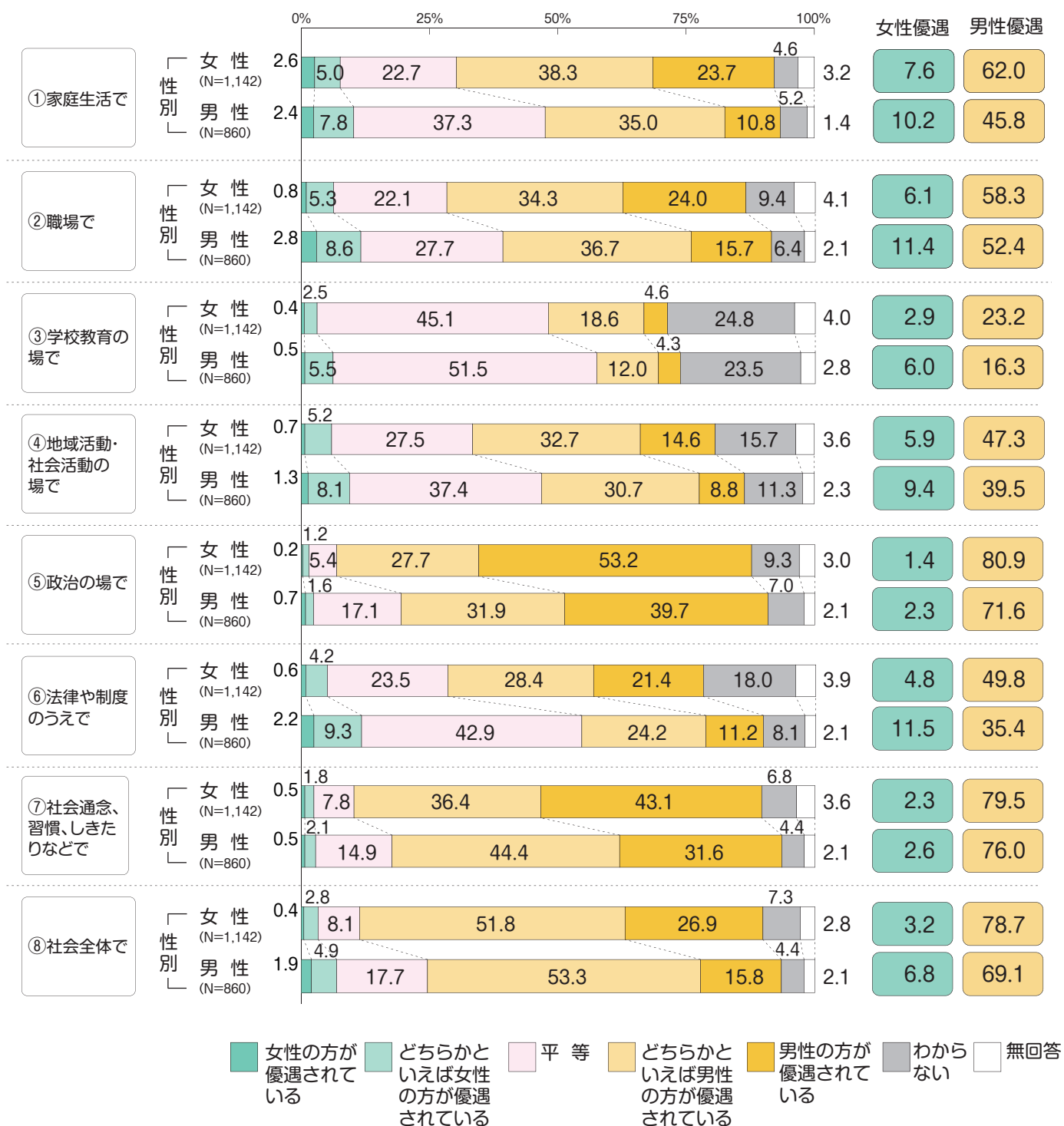
## ●就労状況



## 2. 男女の地位

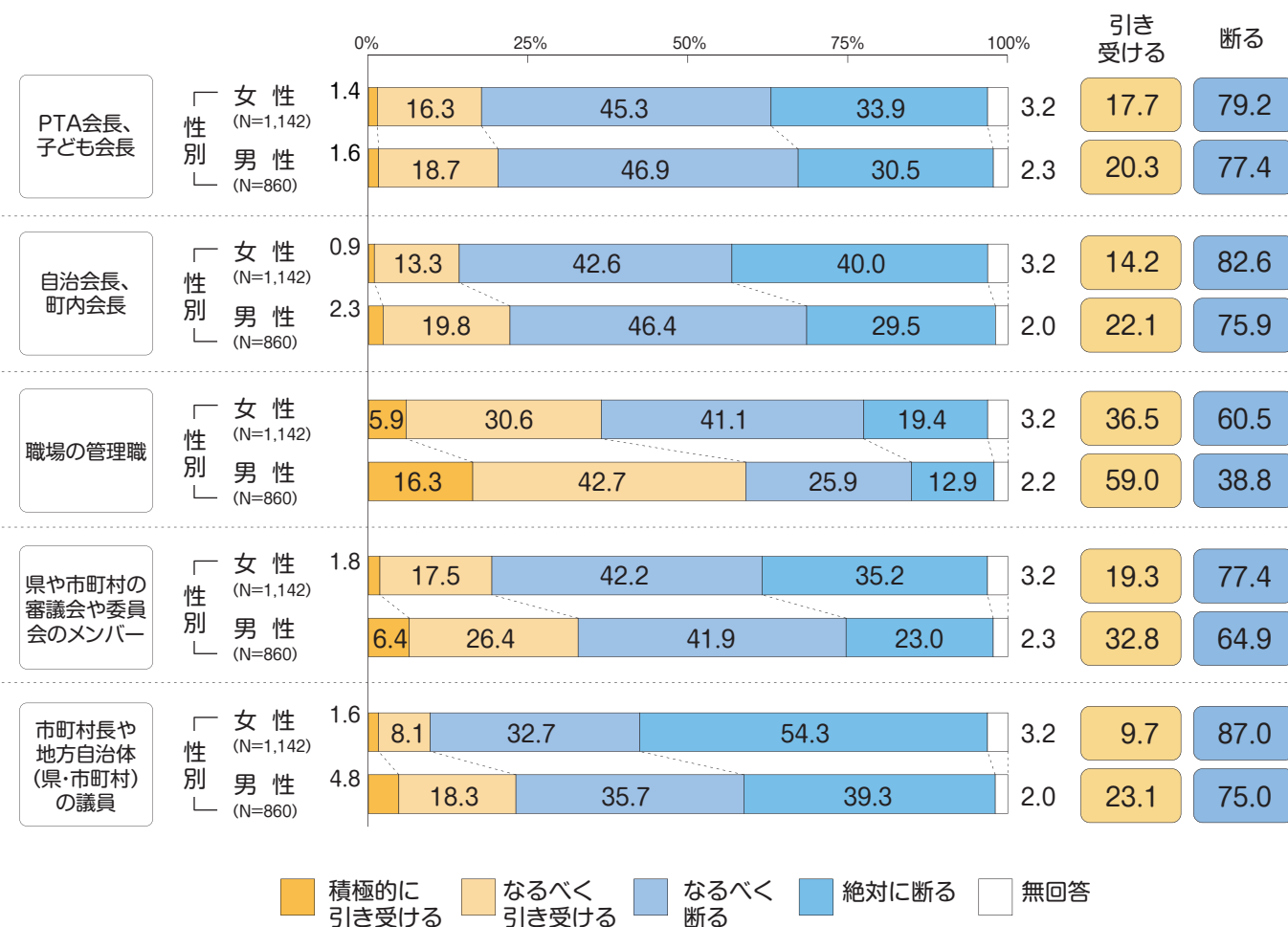
### ●男女の地位の平等感

- ・『男性優遇』は、すべての質問項目で、女性は男性よりも多い。
- ・「政治の場」「社会通念、習慣、しきたりなど」は、『男性優遇』が男女ともに70%以上。
- ・「家庭生活」「法律や制度上」では、『男性優遇』は、女性が男性よりも10ポイント以上上回っている。



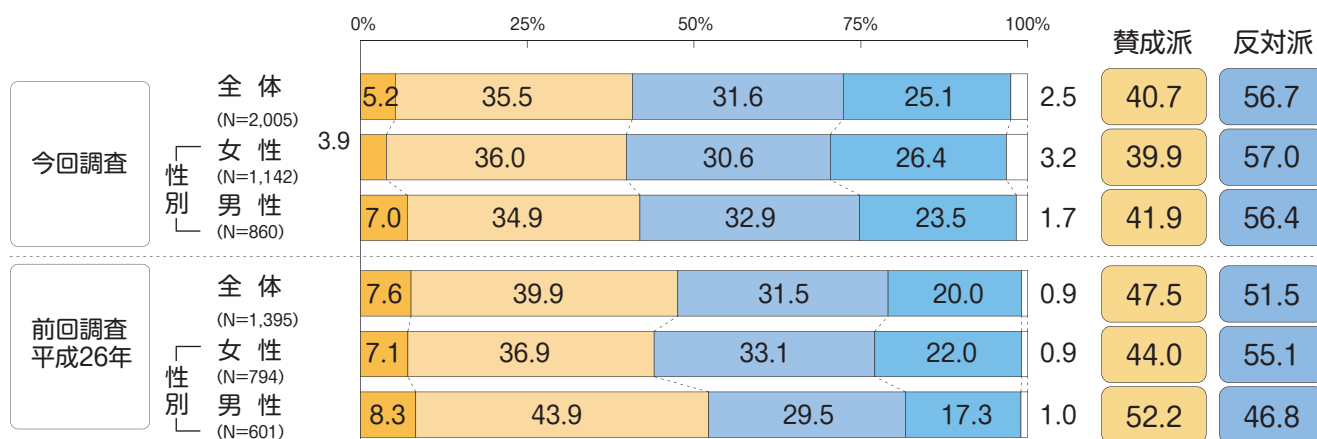
## ●役職や公職に就くことについて

- ・『断る』は、すべての質問項目で、女性は男性よりも多い。
- ・「職場の管理職」は、『断る』が男女とも最も少なく、女性(60.5%)と男性(38.8%)の差が最も大きい。

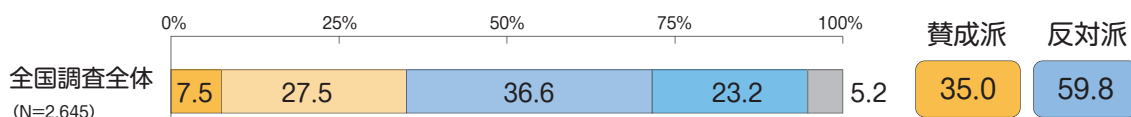


### 3. 性別役割分担意識

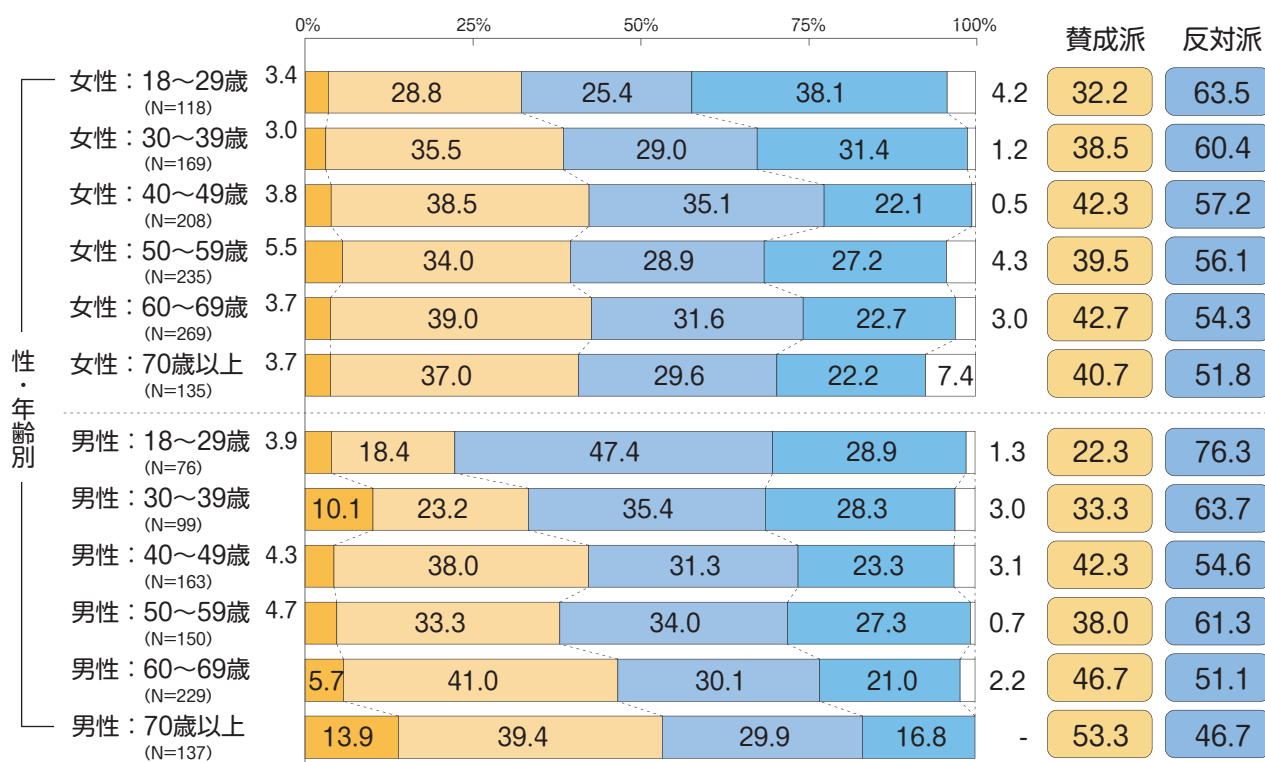
- ・「男は仕事、女は家庭」という考え方については、『反対派』が男女ともに50%以上。
- ・男性の『反対派』は、前回調査よりも約10ポイント増加。
- ・全国調査と比較すると、『反対派』は3.1ポイント下回っている。
- ・『反対派』を年齢別で見ると、男女とも若い層で多く、男性の18～29歳は76.3%、30代も63.7%で、どちらの年齢層も女性を上回っている。



■ 同感する
 ■ ある程度同感する
 ■ あまり同感しない
 ■ 同感しない
 ■ 無回答



■ 賛成
 ■ どちらかといえば賛成
 ■ どちらかといえば反対
 ■ 反対
 ■ わからない

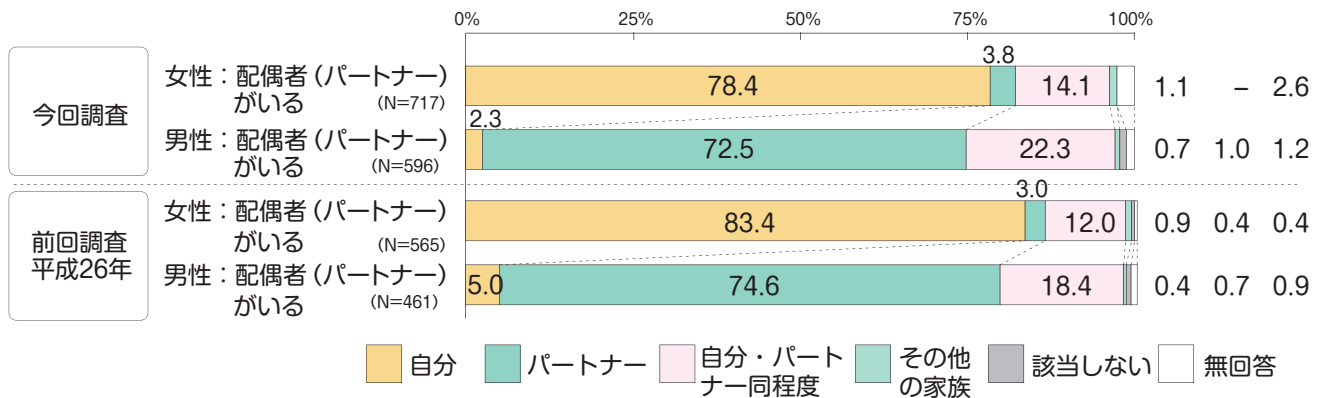


■ 同感する
 ■ ある程度同感する
 ■ あまり同感しない
 ■ 同感しない
 ■ 無回答

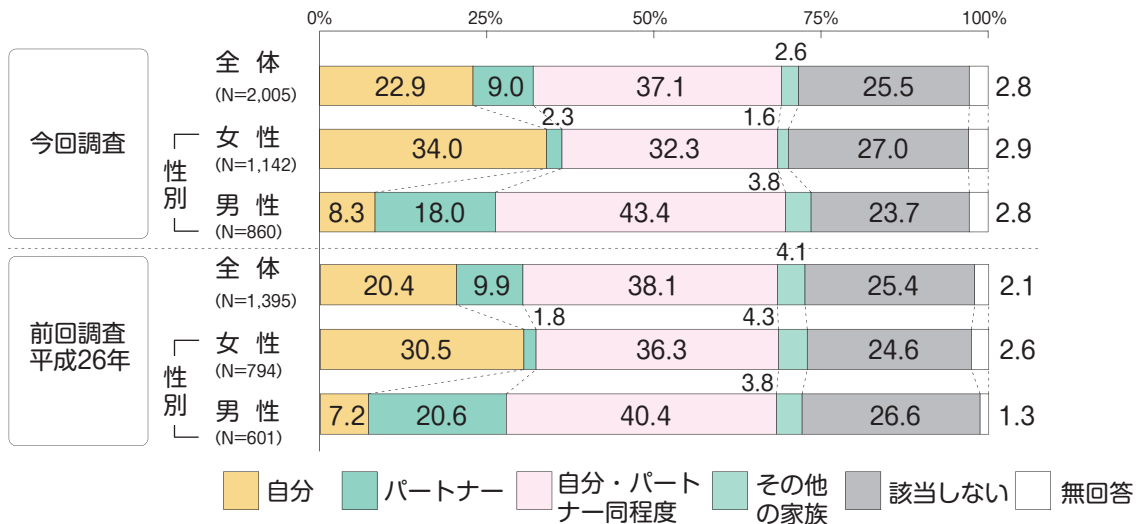
## 4. 家庭生活

- ・ 配偶者(パートナー)がいる人で「炊事、掃除、洗濯などの家事」を主にしている人は、女性は『自分』が78.4%、男性は『パートナー』が72.5%。
- ・ 「親の介護」は、女性は『自分』が34.0%、男性は『自分・パートナー同程度』が43.4%。
- ・ 「育児・子どものしつけ」は、女性は『自分』が58.7%、男性は『パートナー』が49.0%。

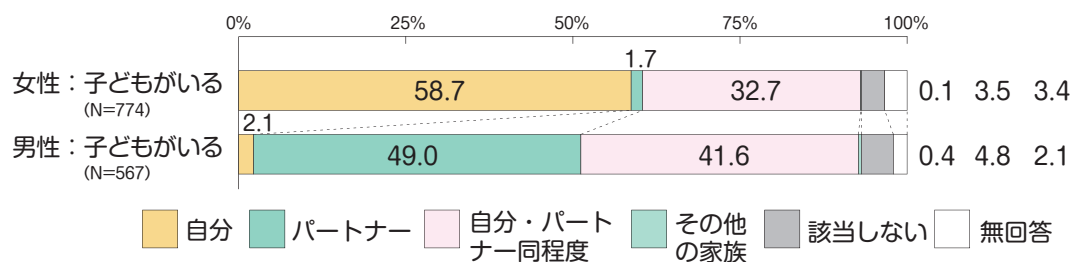
### ●「炊事、掃除、洗濯などの家事」の役割分担



### ●「親の介護」の役割分担



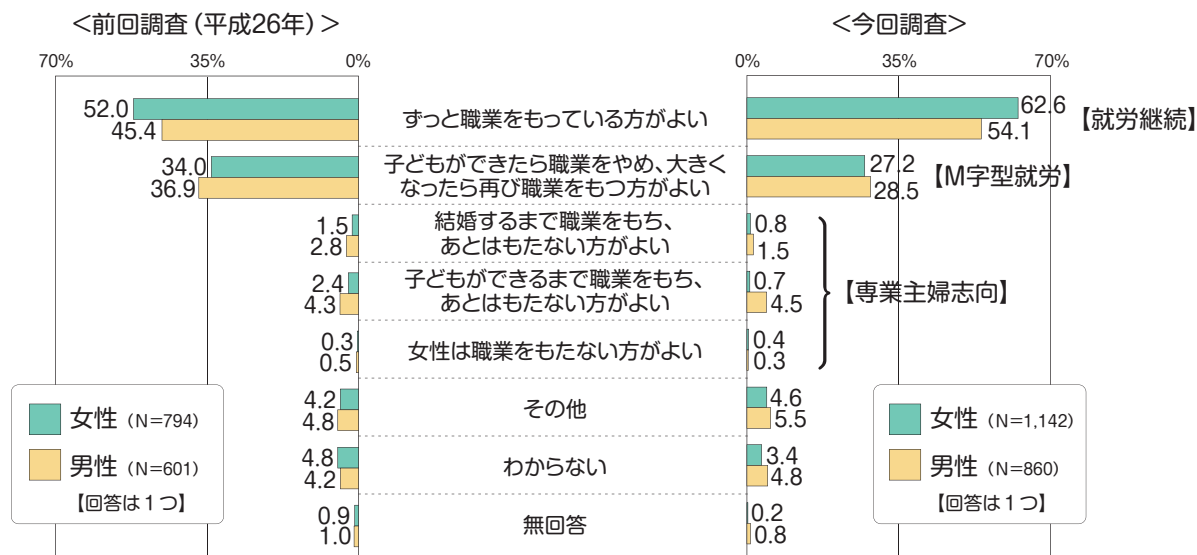
### ●「育児・子どものしつけ」の役割分担



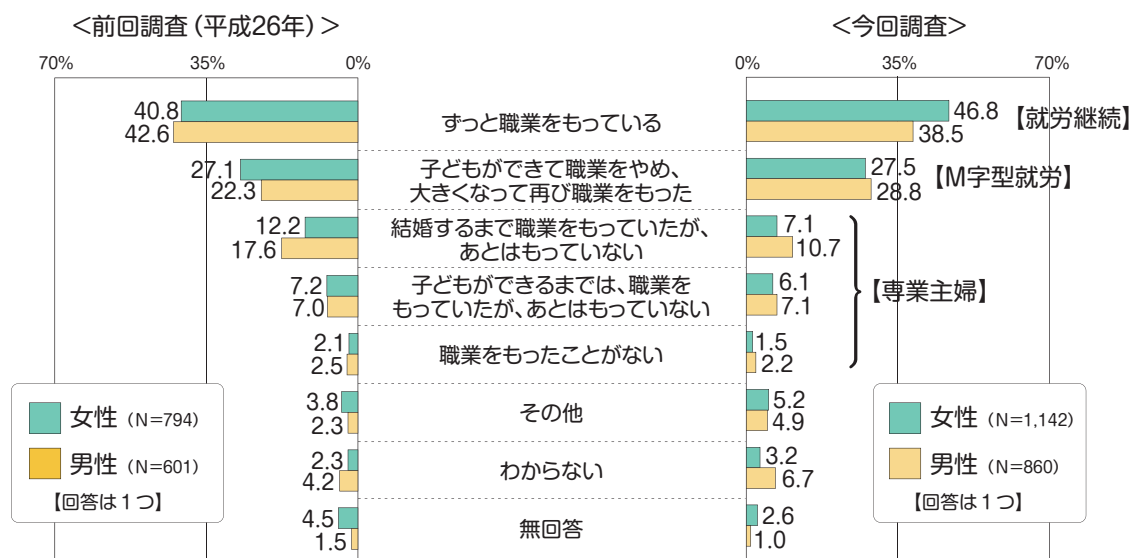
# 5. 職業

- ・ 女性が職業をもつことについての考え方は、「ずっと職業をもっているほうがよい(就労継続)」は、女性は62.6%、男性は54.1%で、前回調査よりも男女ともに約10ポイント増加。
- ・ 「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつほうがよい」は、男女ともに30%を下回り、前回調査よりも女性は6.8ポイント、男性は8.4ポイント減少。
- ・ 現実の女性の働き方は、男女とも「ずっと職業をもっている(就労継続)」が最も多く、前回調査よりも女性は6ポイント増加、男性は4.1ポイント減少。
- ・ 考え方と現実を比較すると『就労継続』は、男女とも「現実」の方が15ポイント以上下回っている。

## ●女性が職業をもつことについての考え方



## ●現実の女性の働き方

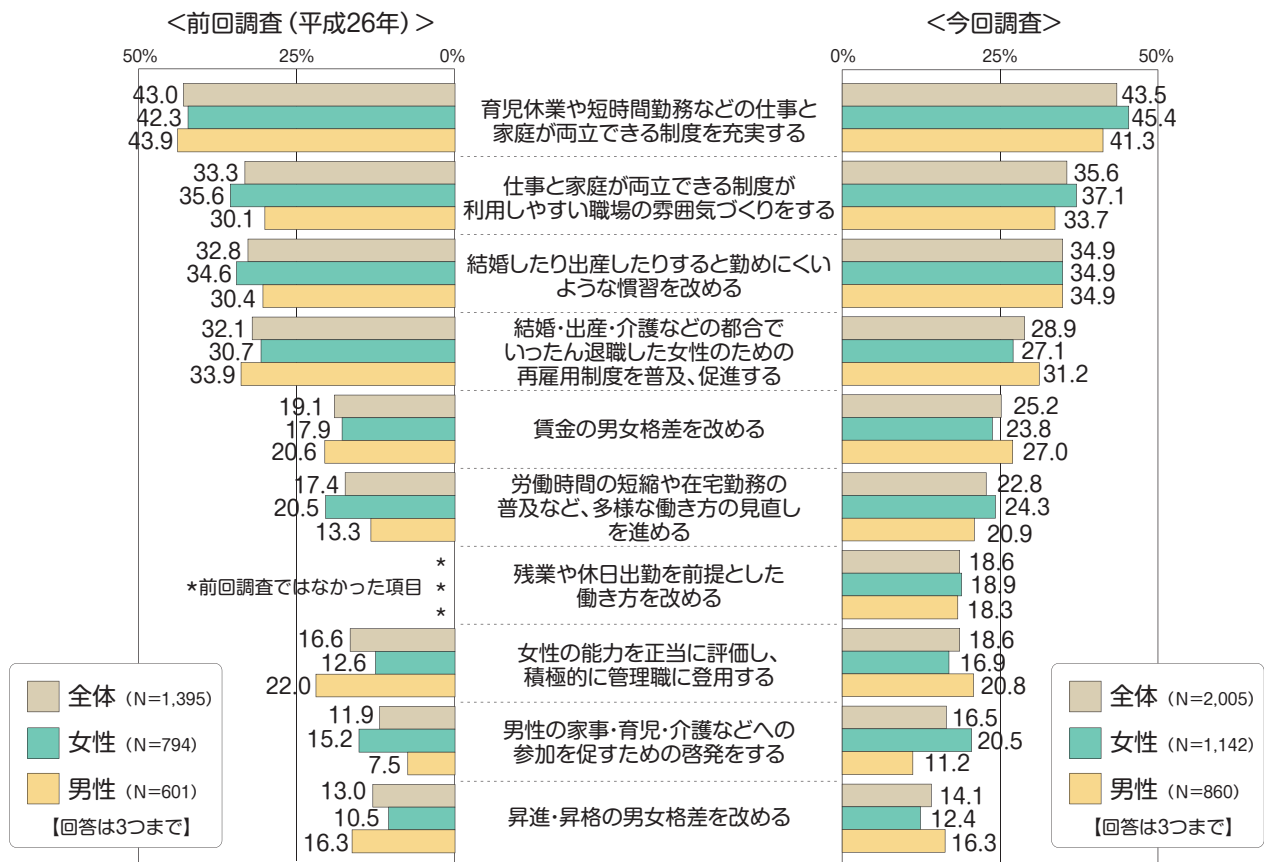




## 6. 働き続けるために必要なこと

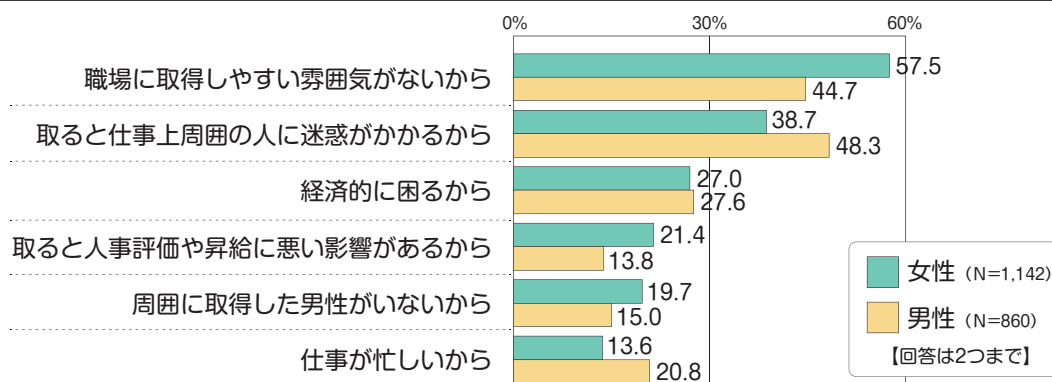
### ●女性が働き続けるために必要なこと(上位10項目)

- ・「育児休業や短時間勤務などの仕事と家庭が両立できる制度を充実する」(43.5%)が最も多く、次いで「仕事と家庭が両立できる制度が利用しやすい職場の雰囲気づくりをする」(35.6%)、「結婚したり出産したりすると勤めにくいような慣習を改める」(34.9%)の順。
- ・「男性の家事・育児・介護などへの参加を促すための啓発をする」では、女性(20.5%)と男性(11.2%)の差が最も大きい。
- ・前回調査と比較すると、全体では「賃金の男女格差を改める」が6.1ポイント、「働き方の見直しを進める」は5.4ポイント増加。



### ●男性が育児休業を取得しない(できない)理由(上位6位)

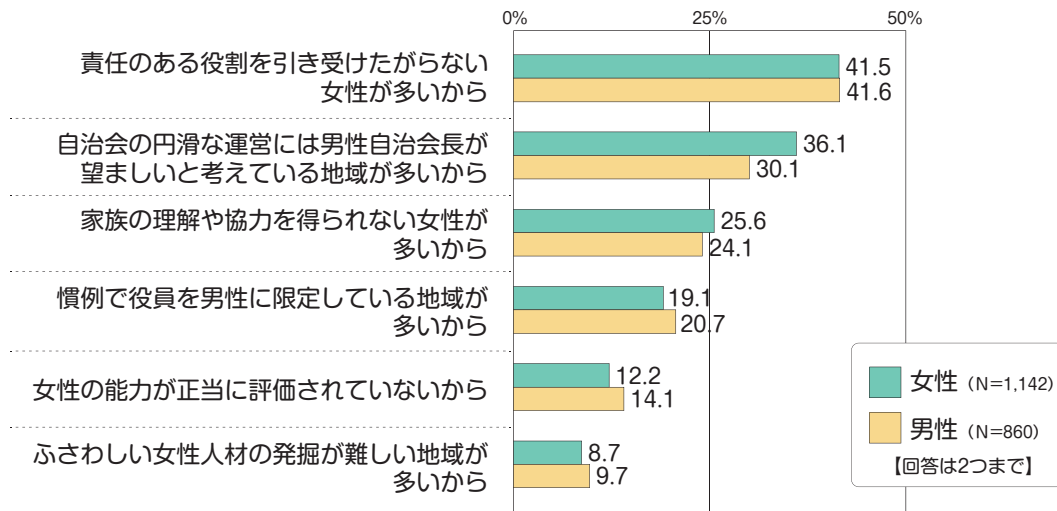
- ・「取ると仕事上周圍の人に迷惑がかかるから」が、男性は48.3%と最も多い。
- ・「職場に取得しやすい雰囲気がないから」は、女性は57.5%と最も多く、男性は44.7%と2番目に多い。



## 7. 地域活動

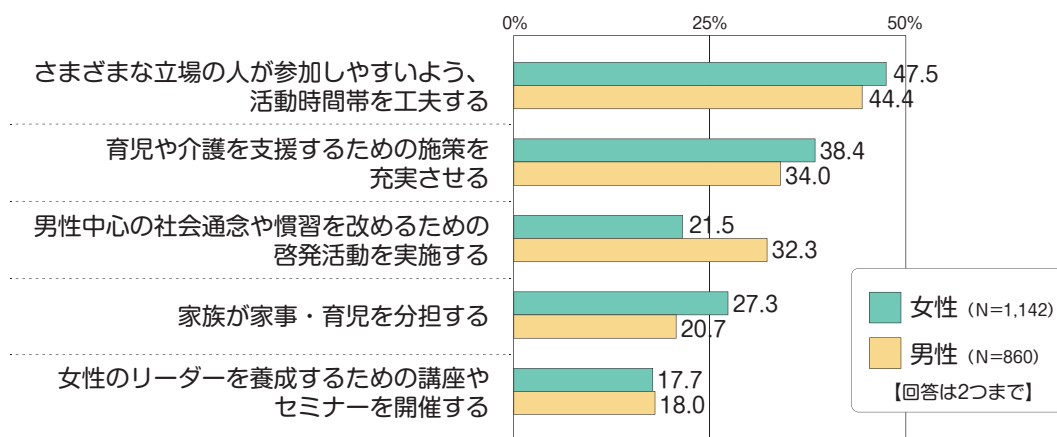
### ●自治会役員に女性が少ない理由(主なもの)

- ・「責任のある役割を引き受けたくない女性が多いから」が男女とも最も多く、約40%。
- ・「自治会の円滑な運営には男性自治会長が望ましいと考えている地域が多いから」が次に多く、女性(36.1%)と男性(30.1%)の差が最も大きい。



### ●地域の女性リーダーを増やすために必要なこと(主なもの)

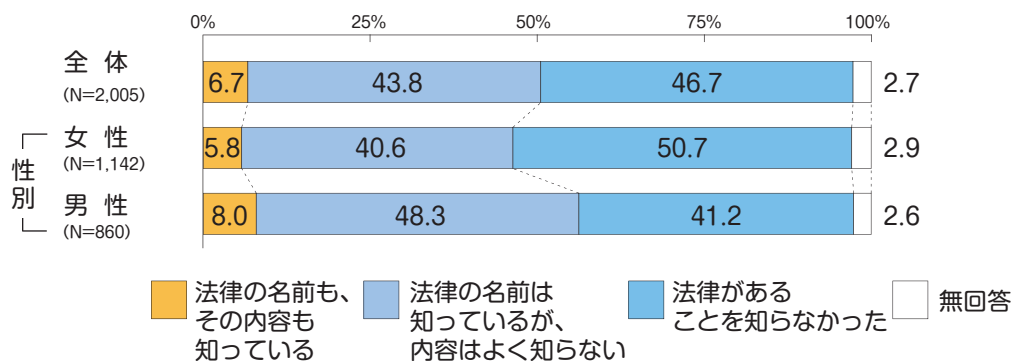
- ・「さまざまな立場の人が参加しやすいよう、活動時間帯を工夫する」が男女とも40%以上。
- ・「男性中心の社会通念や慣習を改めるための啓発活動を実施する」は、男性(32.3%)が女性(21.5%)を10.8ポイント上回り、差が最も大きい。



## 8. 政治分野における男女共同参画

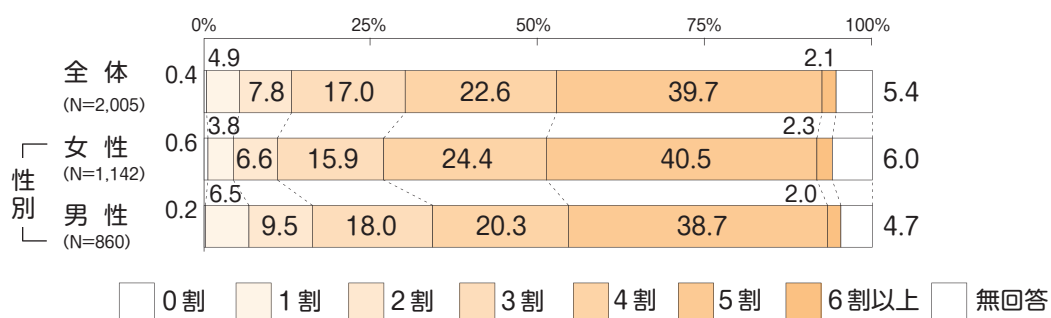
### ●政治分野における男女共同参画の推進に関する法律(平成30年5月公布)の認知

- ・「法律の名前も、その内容も知っている」は男女とも10%未満。
- ・「法律があることを知らなかった」は、女性が50.7%、男性が41.2%。



### ●地方議会における女性議員の理想の割合

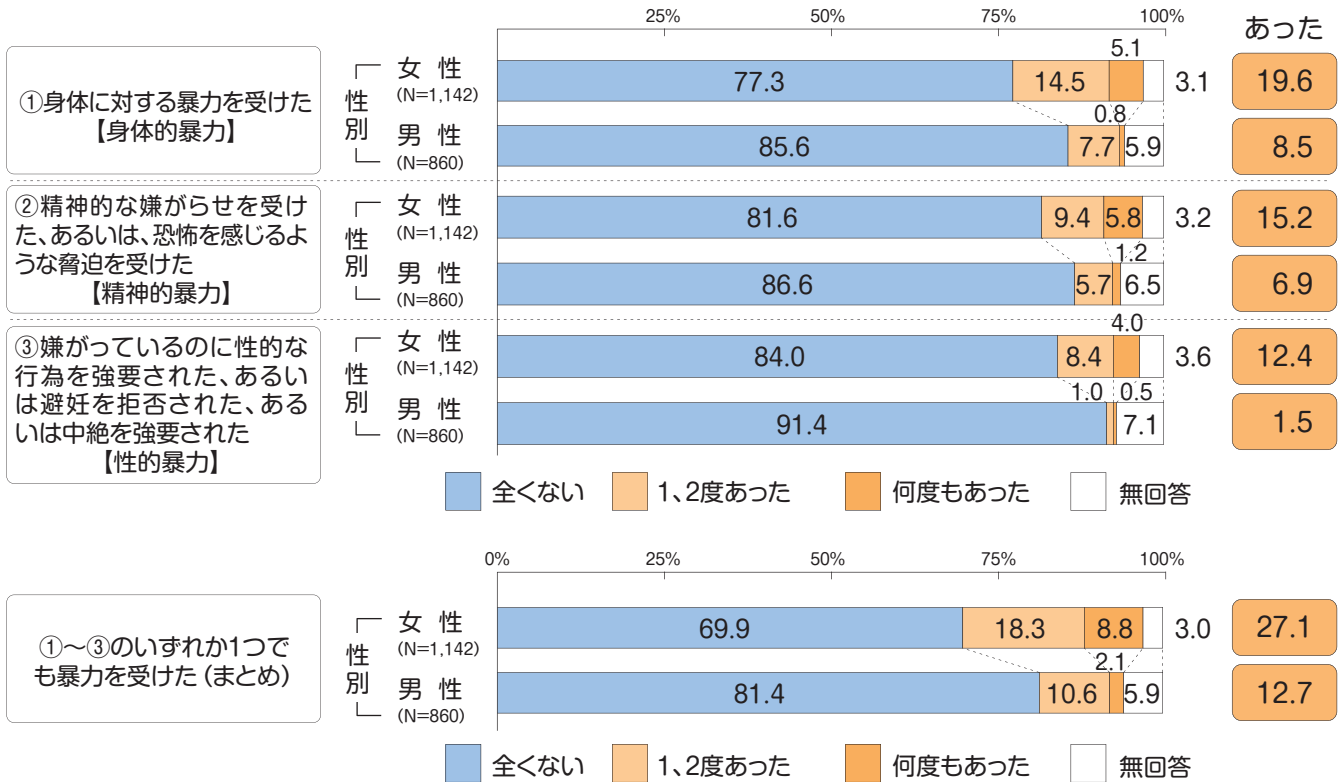
- ・理想の割合は、「5割」(39.7%)が最も多く、次いで「4割」(22.6%)、「3割」(17.0%)の順。



# 9. DV(配偶者や交際相手からの暴力)

## ●被害経験の有無

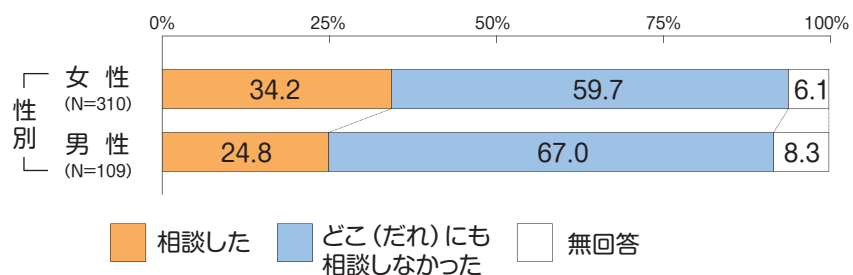
- ・ 女性は、「身体的暴力」(19.6%)が最も多く、次いで「精神的暴力」(15.2%)、「性的暴力」(12.4%)の順。
- ・ 男性も、「身体的暴力」(8.5%)が最も多く、次いで「精神的暴力」(6.9%)、「性的暴力」(1.5%)の順。
- ・ 「これらの暴力のいずれか一つでも受けたことがある」は、女性は27.1%、男性は12.7%。



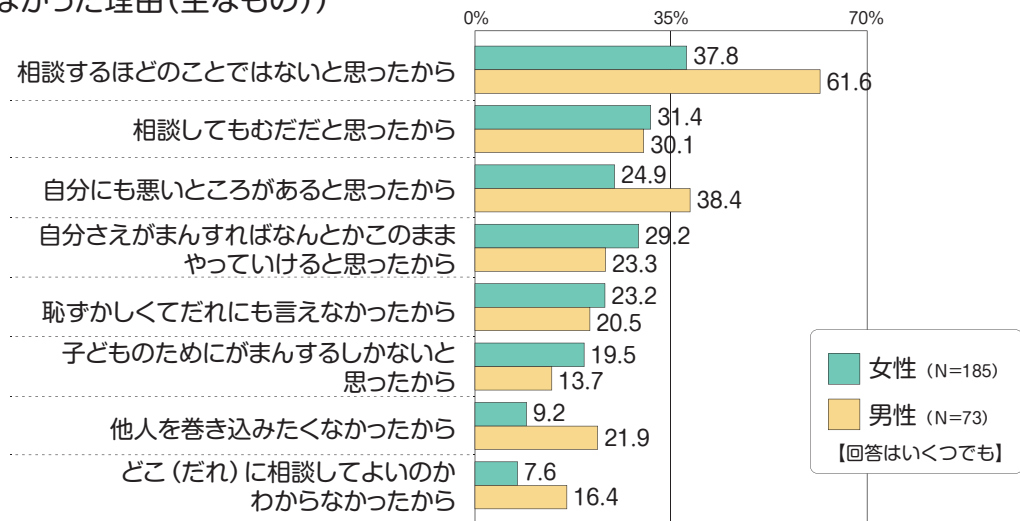
## ●相談の有無と相談しなかった理由

- ・ 被害経験がある人で、「相談した」は、女性では34.2%、男性は24.8%。
- ・ 誰にも相談しなかった理由は、男女とも「相談するほどのことではないと思ったから」が最も多く、男性では61.6%。
- ・ 「相談してもむだだと思ったから」は男女とも約30%、「自分にも悪いところがあると思ったから」は男性で38.4%。

(相談の有無)

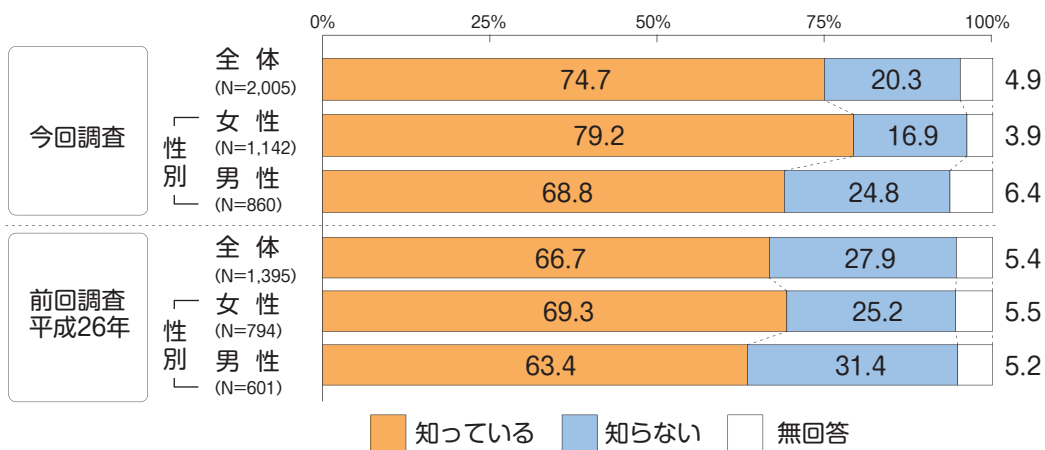


(相談しなかった理由(主なもの))



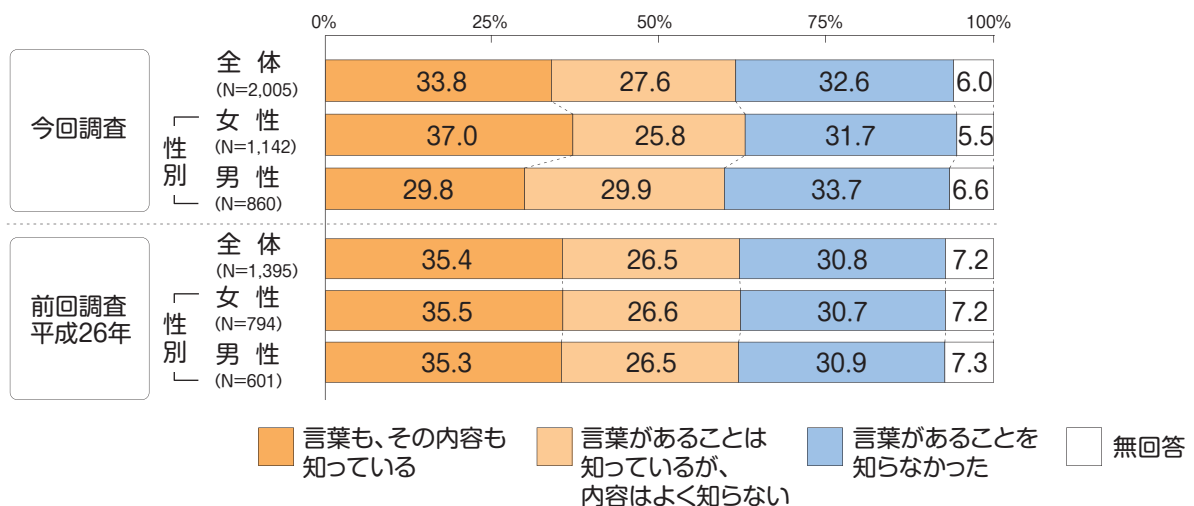
●DVの相談窓口の認知

- ・ 相談窓口の認知は、女性は79.2%、男性は68.8%。
- ・ 前回調査と比較すると、男女ともに認知度は上昇。



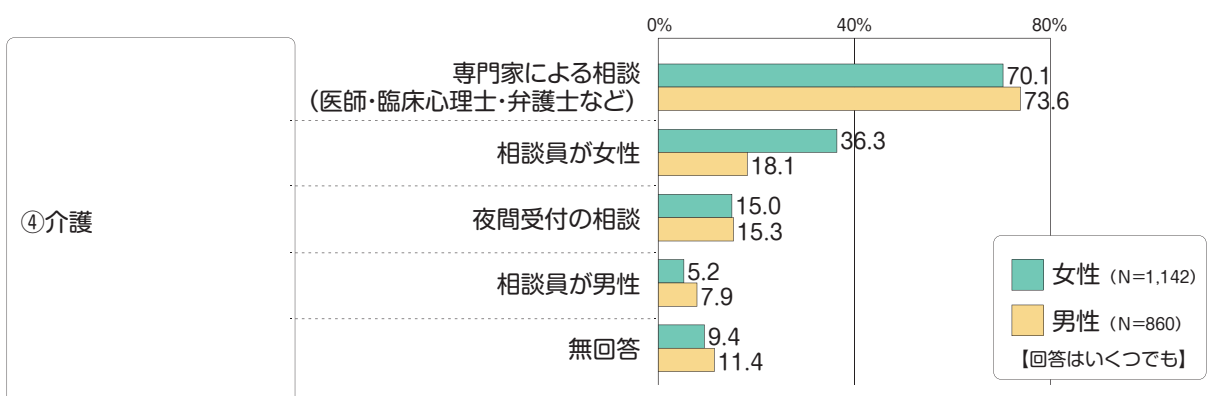
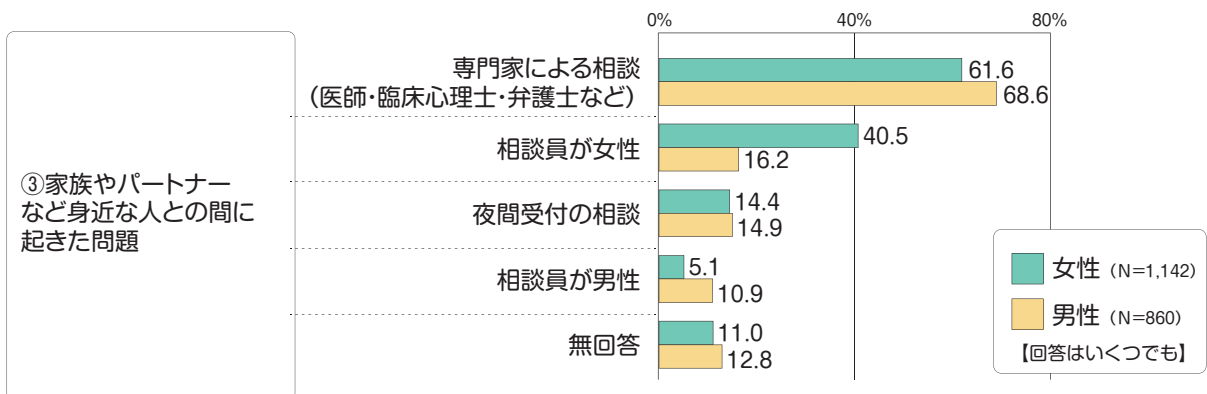
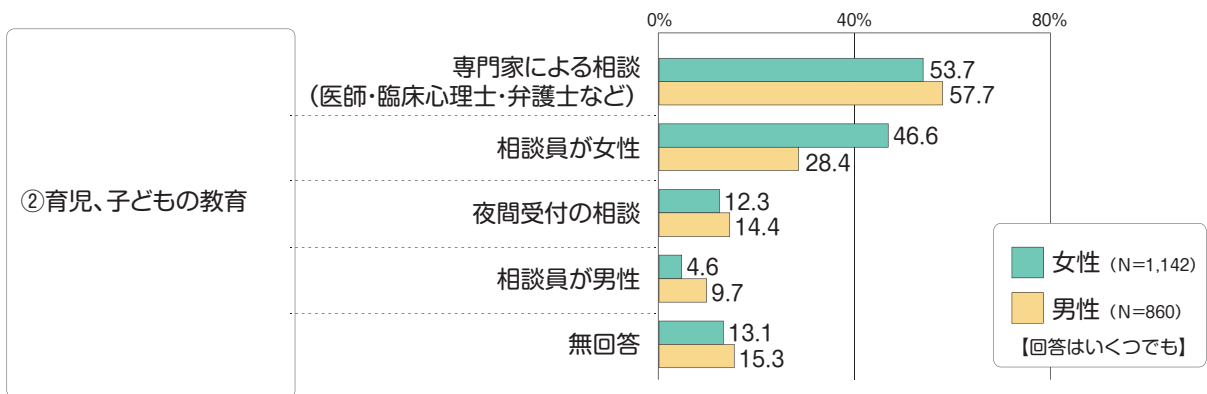
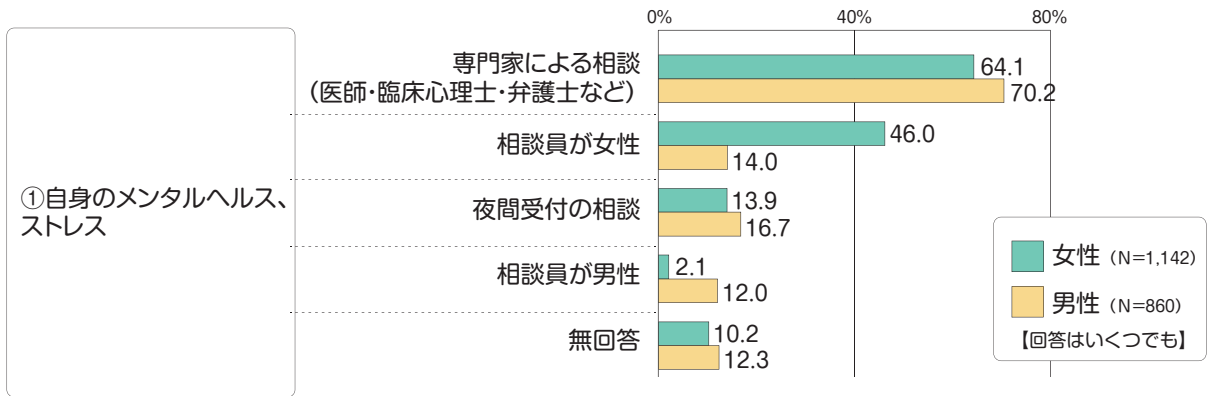
●デートDV(交際相手からの暴力)の認知

- ・ 「言葉も、その内容も知っている」が女性は37.0%、男性29.8%。
- ・ 男性では、前回調査よりも「言葉も、その内容も知っている」は低下。



# 10. 悩みを相談する体制

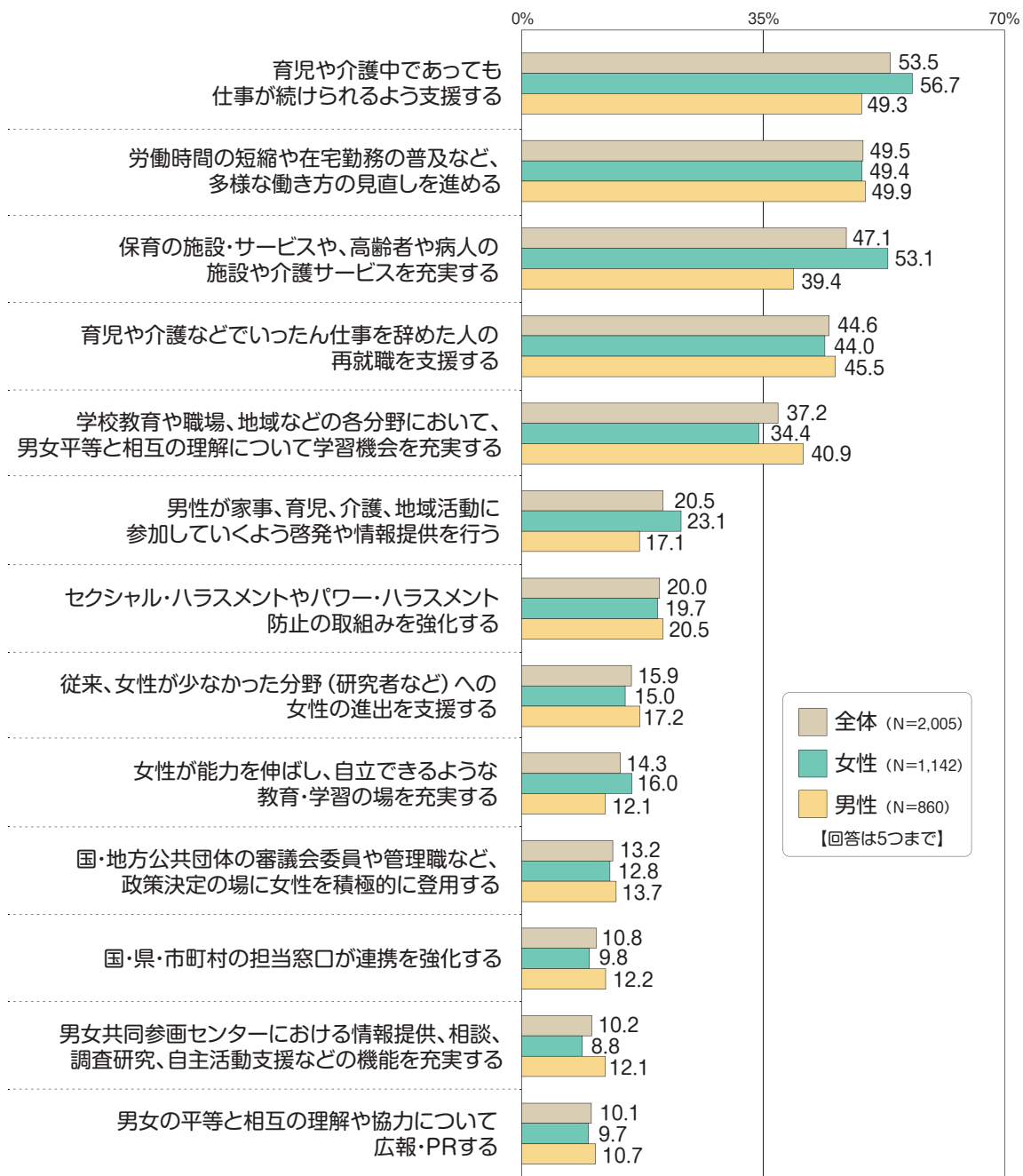
- ・ 悩みの相談体制は、いずれの悩みも男女とも「専門家による相談(医師・臨床心理士・弁護士など)」が最も多く、特に「自身のメンタルヘルス、ストレス」「介護」が、70%前後と多い。
- ・ 女性は、いずれの悩みも「相談員が女性」が次に多く、40%前後。
- ・ 男性は、いずれの悩みも「相談員が男性」よりも「相談員が女性」の方が、約2~19ポイント上回っている。



# 11. 男女共同参画社会の実現

## ●男女共同参画社会を実現するために必要な施策(上位13項目)

・「育児や介護中であっても仕事が続けられるよう支援する」(53.5%)が最も多く、次いで「多様な働き方の見直しを進める」(49.5%)「保育や介護の施設・サービスを充実する」(47.1%)の順。  
 ・男女別では、女性は「保育や介護の施設・サービスを充実する」が53.1%で、男性よりも13.7ポイント上回っており、男性は「男女平等と相互理解について学習機会を充実する」が40.9%で、女性よりも6.5ポイント上回っている。



福岡県行政資料	
分類記号 J D	所属コード 5200408
登録年度 0 1	登録番号 0 0 0 5

男女共同参画社会に向けての意識調査  
概 要 版

令和2年3月

発行 福岡県人づくり・県民生活部男女共同参画推進課  
〒812-8577  
福岡市博多区東公園7番7号  
TEL. 092-643-3391